

第12回 卒業設計コンクール展 開催

埼玉建築設計監理協会の法人化30周年を機に始まった卒業設計コンクールは、今年も埼玉会館にて4月16日(月)～22日(日)迄の1週間にわたり開催されました。

今年で12周年を迎えた今回は、9大学12学科から選抜された28名の力作が会場いっぱいに展示されました。また、多くの企業・団体、共催・協賛団体の協力により盛大に開催されました。



◆開催主旨

都市や建築デザインにもICT革命時代にふさわしい斬新な発想が求められている。そのような中、新しい世紀の第一線で活躍が期待される建築系学生の能力向上、育成を図る目的で、次代を先取りした意欲ある作品を広く募集し、若い学生達の考えた創造価値と熱意を奨励し、また一般の方々にアピールを行う。



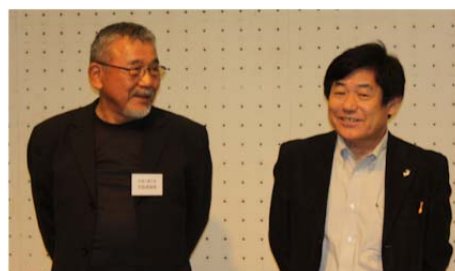
受賞者の皆さん



最優秀賞の荻野恵美さんと桑子会長



公開審査風



審査委員長 衣袋先生/担当委員長 井上忠孝



得票数の発表！



表彰式会場



■実施概要

対 象	大学建築系学生卒業設計作品
賞	最優秀賞：1 作品 優秀賞：2 作品 特別審査員賞：2 作品 埼玉賞：1 作品 JIA 埼玉賞：2 作品 住宅検査センター賞：2 作品 総合資格学院賞：2 作品
作 品 展 示	平成 22 年 4 月 19 日～平成 22 年 4 月 25 日（埼玉会館 第 3 展示場）
審 査	平成 22 年 4 月 25 日
表 彰 式	平成 22 年 4 月 25 日（埼玉会館 2 階 特別食堂）

■審査委員名簿

（敬称略）

◇特別審査員（大学の先生・来賓）

◇一般審査委員（協会委員）

学校名・会社名	氏 名	氏 名	役 職
芝浦工業大学（審査委員長）	衣袋 洋一 先生	榎子 喬	会 長
芝浦工業大学	澤田 英行 先生	高岡 敏夫	相談役
日本工業大学	足立 真 先生	片渕 重幸	相談役
東洋大学	篠崎 正彦 先生	大川 紀夫	副会長
東京理科大学	坂牛 卓 先生	長谷部常美	副会長
東京電機大学	岩城 和哉 先生	田中 芳樹	副会長
工学院大学	倉田 直道 先生	■県内建築系学生奨励事業特別委員会	
武蔵野美術大学	長谷川浩己 先生		
日本大学	川岸 梅和 先生		
ものつくり大学	八代 克彦 先生		
埼玉県都市整備部建築安全課	橋 裕子 課長		
さいたま市建設局建築部営繕課	細田真由美 課長		
(社)日本建築学会埼玉支所	樋口 和男 幹事		
(社)日本建築家協会 J I A 埼玉	三浦 清史 代表		
(社)埼玉建築士会	増谷 治郎 副会長		
(社)埼玉県建築士事務所協会	佐藤 啓智 副会長		
(一財)さいたま住宅検査センター	小松原 明 常務理事	井上 忠孝	委員長
大成建設(株)関東支店	谷 信明 部長	古橋 一廣	委 員
		山田 慎一	委 員
		高梨 久雄	委 員
		齋藤 文博	委 員
		村山 隆之	委 員
		木川 元守	委 員
		原口 剛	委 員

■主催・共催等

(主催)	(社)埼玉建築設計監理協会	(協賛)	(社)埼玉県建設業協会
(共催)	(社)日本建築学会埼玉支所		(財)埼玉県建築住宅安全協会
	(社)日本建築家協会 JIA 埼玉		総合資格学院
	(社)埼玉建築士会	(賛助)	各種団体、企業
	(財)さいたま住宅検査センター	(後援)	埼玉県、さいたま市、テレビ埼玉

■協賛・賛助会社 （順不同）

(社)埼玉県建設業協会 (社)日本建築学会埼玉支所 (社)日本建築家協会 JIA 埼玉
 (社)埼玉建築士会 (社)埼玉県建築士事務所協会 (財)埼玉県建築住宅安全協会
 (社)埼玉県建設産業団体連合会 (一般財)さいたま住宅検査センター
 総合資格学院 大宮校・越谷校・川越校 T O T O (株) 大成建設(株) (株)田中工務店
 柏木建設(株) 吾妻工業(株) (株)佐伯工務店 (株)八洲電業社 (株)蓮見工務店

■卒業設計コンクール出品作品・審査結果

賞	氏 名	学 校 名 作 品 名
最優秀賞	荻野 恵美	東京理科大学工学部Ⅱ部建築学科 ヒトノカタチ
埼 玉 賞	武藤 舞	東京電機大学未来科学部建築学科 飯能における衣・食・住を取り入れた街作り
優 秀 賞	小林 裕太	日本工業大学工学部建築学科 ドヤ街×商店街 つながる立体路地
	金沢 将	東京理科大学工学部Ⅱ部建築学科 邂逅 ―book and place―
特別審査員賞	中島 紀子	日本大学生産工学部建築工学科 Share folder houses
特別審査員賞 埼玉住宅検査センター賞 J I A埼玉賞	市橋 正崇	日本大学芸術学部デザイン学科 棲
J I A埼玉賞	山本 賢人	ものづくり大学建設技能工芸学科 sikiri ―暮らしの目印―
総合資格学院賞	黒須 卓也	ものづくり大学建設技能工芸学科 黒白 ―KOKUHAKU― 死者の伝えたいもの
総合資格学院賞	生田 竜三	東洋大学工学部建築学科 Memory of scenery ―懐かしい未来―
奨 励 賞	中村 仁美	芝浦工業大学システム工学部環境システム学科 忘れものの大学 ―歌舞伎町カルチェラタン―
	松原 輝	芝浦工業大学システム工学部環境システム学科 ヤミ市の海岸線
	荒時千加良	芝浦工業大学システム工学部環境システム学科 集落の教え
	金澤 正人	東洋大学工学部建築学科 YAMADA に住まう2000人都市
	早川 亮	東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科 巻き上がる歩行者天国
	内山 和美	東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科 はじまりのきおく 都市に住まい、子ども部屋に閉じ込められた子ども達へ安心して自由に探検
	浅田 将矢	東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科 繋がる建築はまちを編み込む
	青木 大輔	日本工業大学工学部建築学科 アキバカルチャースクール
	矢野 健太	日本工業大学工学部建築学科 UGOKI 日常が変化する建築
	中島 佑二	工学院大学工学部建築学科 地葬場 ―岩に想う建築―
	吉澤 真純	工学院大学工学部建築学科 共にあり続ける水景
	吉田 敬介	工学院大学工学部建築学科 形態の多様性
	小幡 友樹	東京電機大学未来科学部建築学科 屋根の深度
	片山 祐枝	東京電機大学理工学部 つなげる。つなげる。
	田中里加子	武蔵野美術大学造形学部建築学科 はたけ生活
	久保 沙織	武蔵野美術大学造形学部建築学科 Wandering shopping street
	藤野 芳昭	武蔵野美術大学造形学部建築学科 □□□□
	高橋 潤	日本大学生産工学部建築工学科 農が防災にかかわるとき ―パーキングエリアを玄関口として―
	田中 亮	ものづくり大学建設技能工芸学科 Human link まちとひとを紡ぐ「ててて」な空間

受賞作品

最優秀賞

荻野恵美

東京理科大学工学部Ⅱ部建築学科
ヒトノカタチ



東日本大震災を経て、日本人の DNA を語り継ぎ、未来へとつなげて行くことの大切さを社会は実感したのではないか。
この計画は次世代産業として期待される Soft Power＝芸術面で大きな業績を遺した人物を讃えるための施設である。
彼らを懸賞することで、芸術が DNA となって未来の日本人を形作り、日本の発展を支えて行く。



受賞作品

埼玉賞

武藤 舞

東京電機大学未来科学部建築学科

飯能における衣・食・住を取り入れた街作り



飯能市は元々西川林業が盛んだった地区だが、林業の衰退とともに過疎化も進んでいった。そこで、今回の計画では飯能の産業である林業と織物業を活かし衣・食・住を取り入れた体験施設等を設けて、3か所をつなぐ間の道にもモニュメント等を置き、この地区に新たな町並を作り出す事を目的としている。



受賞作品

優秀賞

小林裕太

日本工業大学工学部建築学科

ドヤ街×商店街 つながる立体路地

低料金の簡易宿泊施設(ドヤ)が多く建ち並び、ドヤ街と呼ばれる東京都台東区日本堤に、地域住民やバックパッカーが買い物をし、コミュニティを広げていくような、ドヤ街と商店街の複合したまちを計画する。ドヤの宿泊者は、食事や就寝、洗濯といった生活に必要な機能をまちに分散させている。そのように、本計画でも1つの住宅や商店を機能に対応した部屋の単位に分解してまちの中に立体的に分散させている。既存の商店街から住宅地やドヤ街へと連続して浸透するように、新たなまちの骨格を形成している。



受賞作品

優秀賞

金澤 将

東京理科大学工学部Ⅱ部建築学科
邂逅 —book and place—

建築だから出来ることは何か？

建築は場である。しかし、現在のネット社会においてはネット上に場ができ始めた。

特に顕著なのが、図書館である。

知の媒体が本からデータに移行するにつれ、図書館という「知の集積」の場は建築を必要としなくなった。

その中で、建築だから出来る図書館を考えようと思う。

そして、それはこれからのウェブ社会の中で場である建築に必要なものである。



受賞作品

特別審査員賞

中島紀子

日本大学生産工学部建築工学科

Share folder houses

震災を機に人とのつながりを持ちたい、人との絆を深めたいと思うようになった人は増えました。シェアハウスは人とのつながりを求めてくる人たちの集合です。

シェアハウスの本来の意味を再度考え、新たなシェアハウスを提案します。

集まってくる人たちによってシェアするものは異なります。個々としてシェアするもの、集合としてシェアするものは異なります。家をシェアするのではなく、人それぞれが持っている属性をシェアすることで人々はつながり始めます。



特別審査員賞・JIA賞 埼玉住宅検査センター賞

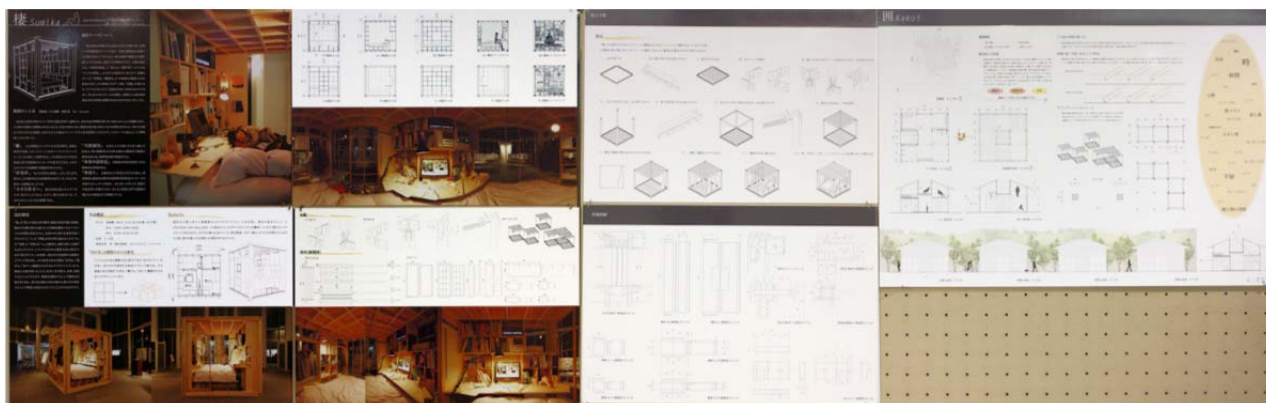
市橋正崇

日本大学芸術学部デザイン学科

棲

「棲」は日本に古来から伝わる「間」の文化を受け継ぎ、建築と家具の間に位置し、既存の空間の中に孤立した新たな空間を構成するモノです。この空間は人や時、場所に影響されることなく、人々の生活の始原、つまり原点となるのです。「人」と「空間」が共に時を重ねることで、「人」は「空間」に「空間」は「人」に馴染み、個性を持った棲が生まれるのです。

システムは日本の「仕切る」という文化から生まれた「田の字プラン」を参考にし、プランを平面的だけではなく立体的に捉え、仕切る機能はそのままに鴨居や敷居と共に分解し、再デザインしています。構造に金具を使わない軸組構法を用いることで、組立、分解、可変が可能となっています。



受賞作品

JIA賞

山本賢人

ものづくり大学建設技能工芸学科

sikiri ー暮らしの目印ー

Concept は、「Focus」。

衰退した町では「暮らしの目印」が見失われています。それは、自動車を中心としたライフスタイルに合わせて、目印は高層化したことが原因です。Sikiri は歩行空間にヒューマンスケールな目印として点在し、車での移動では感じることの出来ない「まち」を形成します。

衰退した町に、新たな町の焦点をつくり出します。



総合資格学院賞

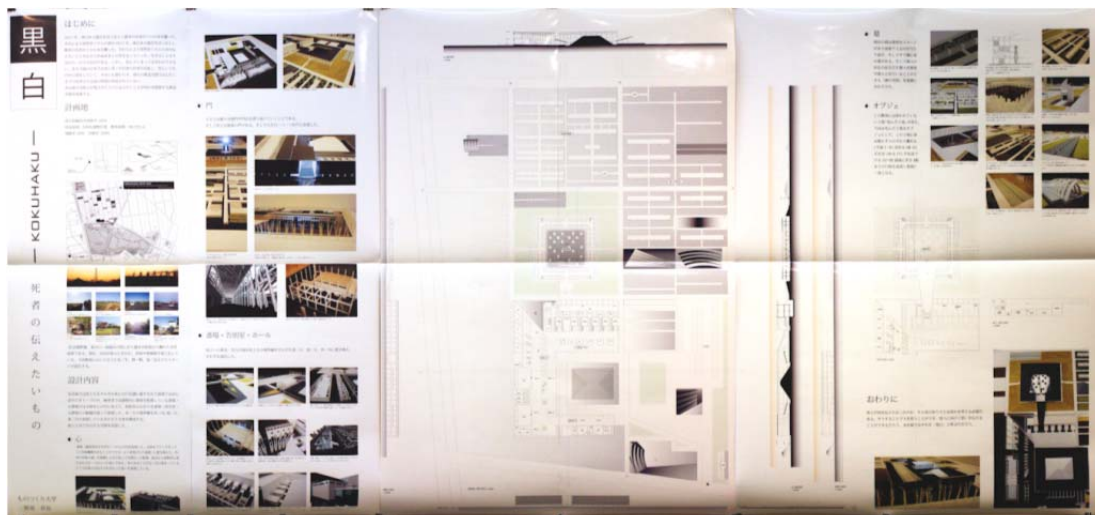
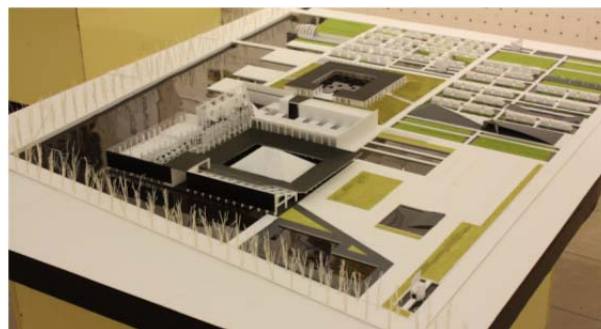
黒須卓也

ものづくり大学建設技能工芸学科

黒白 -KOKUHAKU- 死者の伝えたいもの

2011 年、東日本大震災をはじめとし数多の災害がこの日本を襲った。それらにより突然多くの人の命が伝えたいことを伝えられぬままこの世を去っていった。生きることはすなわち、日々の告白である。しかし、死んでしまえばそれができない。また今後の日本では死亡者／出生率の比率が反転し、死というものが日常化していく。それにも関わらず、現行の葬送空間では心行くまでの死者との会話の時間が用意されていない。

本計画では故人が残された人々に伝えたいことが何かを瞑想する葬送空間を提案する。



受賞作品

総合資格学院賞

生田 竜三

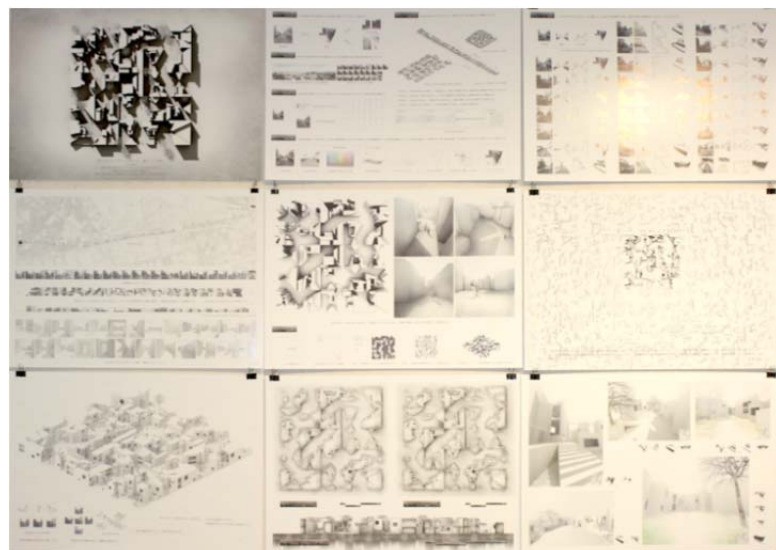
東洋大学工学部建築学科

Memory of scenery —懐かしい未来—



典型的な均質風景が展開される郊外で、郊外らしさを記憶として残しながら、別の風景を持つ住宅地を提案します。日常風景から新しい風景を生み出し、記憶を刻む方法論を構築します。

方法論により導かれた住宅地では、日常の風景が記憶となり、新しい未来でも懐かしい過去でもない、懐かしい未来が創造されています。



総 評

審査委員長 衣袋 洋一（芝浦工業大学教授）

東日本大震災に関連したテーマ、内容が提出されるという期待は裏切られ、ここ数年の傾向、単純な機能の施設（斎場、死の空間）が選択され、今年度も変わらなかった。世俗的な機能ではないものは演出的な空間・形態が得やすいということであろう。社会の閉塞的、沈滞的な世相への反映であるならば、前向きなメッセージとしては少々疑問である。

最優賞作品は造形=空間&形態と構造、つまり、「美」と「強」の力強い一致が都市へ、構造へのダイナミック、迫力ある提案として評価され、多くの支持を受けたと考えられる。「用」としての機能を見れば、現在的であり、それでなくてはいけないという点では不満が残る。

一方、埼玉賞の作品はどうであろうか。テーマ、及び図面表現は素直な作品であり、埼玉賞としては無条件に多くの審査員に受け入れられた。

今回の2作品の選考は、ある意味での両面を見せ、建築とまちづくりの「地産地消」という問題を示すものではないだろうか。

最後に、複雑な世相の反映は、はっきりしたもの、単純なものの採用と意味のない不揃いの造形・群構成といった傾向を生み出していると思われる